

この街が好きだから

# 武蔵野 スケッチ 物語 97

井の頭

恩賜公園にて

絵と文 大須賀一雄

見慣れた風景も、  
絵になるとちょっと違う趣が出てきます。  
そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが  
春夏秋冬で切り取って描きます。



残暑とはいえ、このところ異常とも思えるほど暑いので、熱中症にならないよう気を付けている。個人的には、寒い冬よりも暑い夏の方が好きなので、私自身はそれほど苦にならない。それでも現在日本ではどこの家庭にもエアコンがあり、外の気温にあまり影響を受けずに生活できるので、とてもありがたいと思っています。

私は、野外で写生するときは必ず現場に行つて描くことにしている。しかし、最近ではあまりに暑い日は、野外スケッチはできるだけ避けるようにしている。人によっては、現場で写真を撮つてきて、家でそれを見ながら写生すればよいのではと思われているかもしれない。しかし、私は現場の雰囲気大切にしているの、写真を撮つてきて、それを見ながら絵を描くことは決してしない。実際の風景を現場で写生できることは、それ自体が素晴らしいことなので、今後もそれを続けていきたいと思っています。

大須賀一雄（おおすか・かずお） 水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』（日貿出版社）、『スケッチお手本帖』（素朴社）、『透明水彩の世界・ヨーロッパ』および『緑』（旅もようスケッチ会）ほか。2022年まで、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も30回を超える。